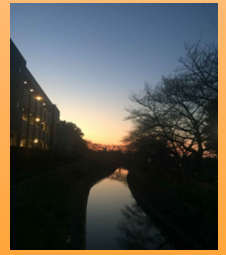




埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ：キリスト教理解



2021-22 年度 会長テーマ「地域と繋がろう・地域に知られよう」

関東東部部長 大澤和子（所沢）「私の地域から世界に広げよう青少年を支えるワイズの輪・和・ワッ！」

東日本区理事 大久保知宏（宇都宮）「私たちは次の世代のために何ができるか？」

アジア地域会長 Ohno Ben（大野勉・神戸ポート）“Make a difference beyond the 100th” “100年を越えて変革しよう”

国際会長 キム・サンチェ（韓国）“Y's Men with the World” “世界とともにワイズメン”

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 上松寛茂 / 書記 水無瀬隆三 / 会計 小林道明

直前会長 上松寛茂 / ブリテン 水無瀬隆三・浅羽俊一郎 / 担当主事 太田 聡

今月の主な内容

- ◆11月例会メモ ◆よる談会メモ ◆さいたま市民活動「南風」訪問 ◆関田寛雄先生（その4）



会長挨拶

浅羽俊一郎

会長職を始めて半年。埼玉クラブの面々には励まされています。さて師走に入り、オミクロン型ウイルスが徐々に世界を席卷しつつありますが、日本は今のところ持ちこたえています。安心していませんが、街に出て若者も高齢者も

真面目にマスクしているのを見るとホッとしている自分がいます。思えば私たちは風邪、花粉症、以前は公害とマスクとは長い間つきあってきました。冬や春先の風物詩でした。今海外のニュースでマスク着用に馴染めない大人たちが大勢マスク無しで密集しているのを見るにつけ、習慣の違いを思わされます。

話はかわって先日「丸木美術館」を友人と見ってきました。丸木伊利・俊夫妻が後半生をかけて広島原爆下での人々を描いています。岡村学芸員の丁寧な説明でご夫妻の物凄い執念と芸術家として

一人ひとりの命・身体への労りが良くわかりました。女子中学生の綺麗な肌にガラスの破片による傷を描くのが辛かった、と丸木俊が語ったという逸話が印象的でした。❖

今月の聖句

「神は実にそのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

（ヨハネによる福音書 3:16）

私の心に触れた言葉

浅羽俊一郎

「奇妙な話だが、人は書物を読むことはできない。再読ができるだけだ。良き読者、一流の読者 創造的な読者とは再読者のことだ。」（ナボコフ）

私の家は両親も妹も大の読書家で、読むのが早く、妹はついに翻訳が生業となった。なのに私はテレビ派で超遅読。加えてつまらない本も読み切らないと悔しい、という悲しい習性が治らない。どうも高校の現国の先生からクラス全員の前で「浅羽は日本語がダメだ」と宣告を受けたコンプレックスが関係しているかもしれない。そこにナボコフのこの言葉。読書は量より質、と叱られているようだが妙に嬉しい。毎年日記帳に書き写している。今は努めて新しい本は買わずに、むしろ古い本を読み返すなどしている。そういえば最近流行っている作家を全く知らない。

12月「クリスマス」特別例会 案内

日時：12月18日(土) 午後2時～4時

会場：「き咲きてらす」（浦和区木崎3-6-6）

開会：点鐘・モットー・ソング・聖句・祈祷
ゲスト紹介・誕生日/祝い事

たっぷり「フェローシップと歌」を楽しもう

- * 閉会后懇親会（別会場）予定しています。
- * コロナ対策は皆さんで心がけてください。
- * 後片付けを忘れないでください。

◆ 11月「もみじ」例会メモ

紅葉が目を和ませる11月。というわけで22日の午後例会は「もみじ」と命名。川越クラブの吉野会長の提案で、大澤部長の知人でマレーシアから帰国中の佐藤英代さんに現地での生活について話を聞こうということになった。この二人はかつて佐藤さんと大澤メンの息子さんが埼玉YMCAのフィリピン・ワークキャンプで一緒だったときからの縁。

当日は佐藤さんの他にもゲストが参加し、総勢16名になった。人数もさることながら、女性たちの存在が場の雰囲気を明るくしてくれた。



佐藤さんはスライドを数多く上映しながらマレーシアに住むに至った経緯、中国系マレーシア人との国際結婚、クアラルンプール郊外での家庭生活と子育ての苦労と喜び。家庭で交わす言語の違いが生む異文化体験を紹介し、他方人々から先の大戦について聞かされる中で日本人としての自分を自覚し、また日本語教師として若者と交わる中で彼らから信頼を得たことなど、話は尽きず。スライド集を行きつ戻りつを繰り返してくれたお陰で多くの画像が印象に残った。昨年からコロナ禍で子ども達と浦和区の実家に滞在中。

話の後は皆で「たき火」を歌った。伴奏は小林メンのハーモニカ、浅羽メンのピアノ。

なお記念写真では自動シャッターに手こずり、会長は自らドタバタ劇を演じることに。撮った写真はこれがベスト。頭が杵からはみ出たゲスト、小林メンには申し訳ないです。(後日スマホ用三脚を購入。)

ゲスト：佐藤英代氏、「ひらや照らす」の大井俊夫氏・三好紀子氏、「みんなの夢ハウス」の五味滋子氏、「き咲きてらす」の歌声グループの平山初子氏、藤井芙美氏、猿渡豊子氏。ご近所の矢田部徹氏。ビジターは大澤部長(所沢)と吉野会長(川越)会友の堀和光二郎氏、浅羽メネット。合計16名 (浅羽 記) ◆

◆ 12月「よる談会」メモ

今月3日は晩例会。今回は衣笠メン行きつけの新都心駅西口の中華料理店で上松、衣笠、三浦、浅羽の4氏が食べるより駄弁を楽しむ。



この会を「よる談会」と命名し、参加者も増やしたい。次回は1月14日午後7時。(浅羽 記) ◆

◆ さいたま市の市民活動を知ろう(5)

カフェギャラリー「南風(みなかぜ)」

浅羽俊一郎

今回は埼玉クラブ例会のほぼ常連の堀和さんの紹介と彼の車で与野本町西口で活動しているカフェギャラリー「南風」を訪ねた。主催する山田ちづ子さん出身の沖縄風に「みなかぜ」と読む。そう言えば前回「みんなの夢ハウス」を訪ねた時もこんな雨だった。



当日は店の前半分を活かして展示販売。地域の人々の手作りの品々が所狭しと並べられている。これらを見始めたなら、いつまでたっても山田さんの

話が聞けないと先へ進むと中間部は展示と食堂。さらに奥にはテーブルと舞台が見える。舞台と言っても今はフードバンクから届けられた食料品の段ボール箱で埋まっている。そこではライブ演奏や歌声サロンも開催しているという。食堂はご長男が支援し、厨房では3人のスタッフが昼食準備に忙しい。多くの女性達が入れ替わりやってきて、活気があふれている。

忙しい中、山田さんから話を聞いた。お歳はほぼ私の世代だが、とにかくガッツと若さの女将だ。大宮に住んでいた時分から子どもの教育活動に力を入れ、それが高じて地域活動に進み、その合間に政治の世界も垣間見た。世間を知り、伝手が広がり、10年前に拠点は大宮の他に、ここ与野本町店をオープンした。ご夫君は出版社の編集者で山田さんを全面的に応援してくれている。



女性が多いと言ったが、コロナ禍中、子ども食堂を始めたら当初見込んだお弁当50食は今や120食。それを友人・見ず知らずの他人が支援金で応援する。

今は提供する活動は子ども対象にロボット教室、講談、ヨガ、編み物と幅が広い。賃貸料、給与も活動の中から払えるようにまでなった。「夫から借りていたお金も全て返済した」正義感と教育に漲るさいたま市民だが沖縄を思う気持ちは強く、色々な形で沖縄をアピールしている。で、私たち二人は昼食に名物「豚の角煮入り沖縄そば」を頂いてお暇を告げた。

写真は2月予定の神田香織の講談「沖縄戦-ある母の記録」のチラシを持つ山田さんと堀和氏。(浅羽) ◆

恩師 関田寛雄先生 と「フーテンの寅さん」(後編)

三浦雄二

上松寛茂



青山学院大学神学科が廃止され、同科の教員たちが全国の大学に散る中で一人残った関田先生が干された冷遇時代の1971年当時の「男はつらいよ」は第6作純情編(マドンナ・若尾文子)、第7作奮闘編(同・榎原るみ)、第8作寅次郎恋歌(同・池内淳子)の頃。絶望の淵に立たされた先生を慰めたのは真っ暗闇に輝くスクリーンだったに違いない。映画が趣味の関田先生の話は洋画の「道」であり、黒沢明監督、志村喬主演の「生きる」だった。

山梨 YMCA で当日(*)、関田先生が2008年4月に日本基督教団横浜上倉田教会で講演した「寅さんとキリスト教～信仰と寅さんの世界～」の再・複製版小冊子を買求めた。そこには山田監督の母親が旧満州時代に医者で牧師と友人関係にあり、洗礼を受ける寸前までいったこと、主演の渥美清の夫人がカトリック信者で死の直前に彼が病床洗礼を受けたという日本基督教団出版局が数年前発行の「信徒の友」で山田監督と関田先生との対談の記事を紹介。映画の中に流れる基調が聖書に通じ、キリスト教思想との共通項が根底に流れていると指摘。映画に描かれた寅さんは「人間に対する優しさであり、差別を生み出すこの世の権威主義に対する反抗心であり、何ものにも束縛されない自由人の面目ではなかろうか」と解説する。

第27作目の「浪花の恋の寅次郎」では瀬戸内海のある島に墓参りに来た芸者おふみにふんする松坂慶子が「兄さん、これからどうするの?」寅「そうだなあ。ま、風の吹くまま、気の向くままよ」と答える。



「お兄さんはいいわねえ。お魚みたいに自由で」という会話に、新約聖書ヨハネによる福音書3章8節の「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くか知らない。霊から生まれた者も皆その通りである」。寅さんの何者にもこだわらない、自由な生き方はこの言葉の活きた注釈ではないかという。帝釈天の御前様(笠智衆)は「あの男はアレでもなかなかのものです。何しろ欲がありませんからなあ」と。無欲の人、それこそは実はキリスト者も含めて日本の宗教者が求めているエトスの一つではないかと指摘する。❖

* 2021年11月6日山梨 YMCA は故大澤英二理事長の一周忌に学友関田牧師の講演会を開催。(編集子)

12月といえばクリスマス。この行事がかつてイギリスとアメリカでどう行われていたか、少し調べてみました。

イギリスでは12月24日はクリスマス・イブ。キャンドルと灯して、キャロルを歌う。クリスマス当日は楽しみにしているプレゼントを開ける、教会の礼拝を守る。そして夜はクリスマス・ディナー。翌26日はボクシング・デイ。伝統的には使用人や郵便配達員への贈り物。過去には狐狩りもしていた。

一方、アメリカではクリスマスの日にはグリーティングカードを交換する。そもそもは1870年にロンドンのカード会社の売り込み戦術だった、とか。ツリーの飾り付けもこの日にやっていたようです。

因みに12月の花と花言葉。花はグレープヒヤシンス。ムスカリとも言う。花言葉は「あなたの奥ゆかしい愛をお慕い申し上げます」もちろん異なる花言葉他にもあるだろう。



そういう私はイルミネーションが楽しみです。ワイズでもやりませんか。私は、子供のころ教会の日曜学校でカードを貰いました事を覚えています。ボクシングデイはないですね。そして大晦日。初参りですね。コロナで行けませんが、私は氷川神社に行くこともありましたが、近くの神社に行くことが多かったです。コロナで残念です。❖

YYY余島シニアキャンプに参加して

衣笠輝夫

期日：2021年9月18日(金)～20日(日)
場所：神戸 YMCA 余島キャンプ場

神戸 YMCA 余島キャンプ場にて開催されたキャンプに参加しました。アジア太平洋地域会長の大野勉さんが実行委員長を務めるシニアキャンプです。日本に2か所しかない10日以上宿泊の青少年長期キャンプ場(余島と東京 YMCA の野尻)、その瀬戸内海小豆島の一角にある余島に前々から行きたいと思っていました。念願がかないました。とても素晴らしかったです。キャンプソングも収集できました。西日本区神戸クラブ、宝塚クラブ等の方々と親しく交流ができよい記念になりました。YYYシニアキャンプに参加したのはYYYシニア山中湖キャンプとYYYシニア余島キャンプです。いずれも YMCA の組織キャンプリーダーOB達が企画したもので、YMCA の組織キャンプとキャンプ場をよく理解することができます。



これから YYY がチミケップ（北海道 YMCA）、野尻キャンプ、阿南海洋センターキャンプ（大阪 YMCA）などで企画してもらいたいです。



集団宿泊活動の経験が注目されています。SNS 等のコミュニケーション手段が発達して、それなりに良いところもありますが、直接顔を合わせ、しかも約 2 週間も一緒に行動を共にすると何が変わるのでしょうか。学校ではカリキュラムの関係上、時間を多く取ることが困難になっている林間学校等のプログラム。それより PC や SNS をしたほうが楽しいと思える風潮。人と接して始めて知る人の痛みや違い。なのに人と直接接することが苦手な人が増えています。そんな中、YMCA の長期組織キャンプは人を大切に、人との関わりの中での成長を目指します。そんな YMCA の貴重な長期キャンプ、青少年の教育キャンプを私たちワイズメンズクラブは応援しています。❖

YMCA スペース

◆ YMCA 便り

11/28 チャリティーラン閉会式
12/11 オンラインクリスマス礼拝&祝会
12/29~1/4 浦和センターは閉館
1/5 早天祈祷会（五十嵐成見氏）

◆ YMCA の小窓から

この 1 ヶ月もオンラインを使ったイベントが行われました。チャリティーランでは昨年に続き、3 週間ウォーク、ラン、スイム、バイクにより距離を申告して合計距離で日本一周を目指しました。残念ながら目標は達成できませんでした。674,201 円の支援金をお預かりできました。またオンラインクリスマス礼拝&祝会では、仲矢宏基さんから奨励をいただき豊かな時間を過ごすことができました。

また嬉しいことに、オンラインでなく宿泊キャンプ「みんな集まれ 2021 キャンプ@新潟」(11/20-21) を実施しました。小学生や卒業生合わせてメンバー 30 名、リーダー 10 名が参加。感染対策上、基本的にはマスクを常時着用し、食事中は会話を控え、各部屋は換気するなど通常の YMCA キャンプとは随分と違った雰囲気もありました。でも楽しみたいという気持ちは 1 つになり、スポ



ーツ、レクリエーション、餅つきなど、子どもたちの笑顔をたくさん見ることができました。最後の最後まで開催について迷うところもありましたが、多くの方のご協力とお祈りによって守られました。感謝をもって報告いたします。（太田聡 館長）❖

お便り



堀和光二郎氏：浅羽会長の強いお勧めで最近会合に参加させていただいております。今年 3 月で 8 年間勤めた「さいたま市市民活動サポートセンター」を退き、残る人生どう過ごすかをゆっくり考えようかと思っておりましたが、今まで支援していた市民団体から待っていたかのようにオファーをいただき、平和、環境、社会問題などに関わりつつあります。それに趣味の音楽に時間を費やし密度の濃い余生(?)を過ごしております。どうぞよろしくをお願いします。

* 堀和(はが)氏は「き咲きてらす」を始める際、浦和のサボセンで相談して以来世話になってます。サクセスとオカリナで歌声てらすを盛り上げてくれる同い年です。(浅羽)

* 今後の主な行事日程

1 月は年度後期半年報告の提出、国際役員選挙など事務作業があります。

14 日 よる談会 新都心駅午後 7 時集合

25 日 新年例会

11 月例会報告	会員在籍数	8 人
例会出席数	16 人	ゲスト・ビジター 12 人
会員出席率	50%	ニコニコ 円

編集後記 11 月例会の佐藤氏は埼玉 YMCA との繋がり、ひらや照らす(国立市)のお二人は武蔵野多摩クラブで大井氏の卓話からの繋がり。運動とは所詮繋がりを生産的に広げることでしょう。「よる談会」は東京山手クラブ「ヨルダン会」(飯島元メン命名)を感謝して拝借しました。(SA)

Men's FOTO Gallery



「JR140 円の旅」埼玉クラブのフェイスブック表紙写真より